

E 班 2 グループ (8 名)
グループ名 Milky Way

討議テーマ 『蓄積された情報を活かす』

1. 要旨

共有ファイルサーバを導入しても、必要となる情報が存在しているにもかかわらず、探し出せない。部署間の情報共有の停滞による業務の非効率なども問題となっている。そこで、情報の有効活用のため、情報検索システム【Google 的な共有ファイルサーバ検索】を提案し、蓄積された情報の中からファイルの中身の全文検索を行うことで、必要なデータを探し出すことができる。また、検索結果に、担当部署と作成者がある程度わかるような工夫を加えることで、どの部署がいつどんな情報が生み出すかがわかるようになる。その結果、業務効率化が促進され、その時間を学生支援に費やすことで、学生サービスの向上を図ることができる。

2. テーマ選定理由

共有ファイルサーバ導入後は、データの蓄積が進むと思われる一方、以下のような課題・問題が発生すると考えられる。

- ファイルがサーバにあってもインデックスがないため行方不明になる。
- 他部署のファイルは見られない。(縦割り)
- 自部署の業務外の問い合わせに応える際に、すぐに適切な部署を案内できない。

そこで課題を「学内情報の交換の停滞」、目的を「スムーズな学内情報の交換」にし、目的のための(情報技術を用いた)解決策の提案を【Google 的な共有ファイルサーバ検索】とする。

3. 討議結果

《課題・問題》 (学内情報共有に関する課題)

他部署とも共有できるよう、共有ファイルサーバを導入し、個々の情報は主幹の各部署個々で保管している。しかし、以下のような理由で、せっかくのデータが有効に活用されていない現状である。

- ファイルサーバに保存されているファイルの整理がされていない。
- インデックスがない。
- 情報(ファイルの中身)の内容がわからない。

また、共有フォルダに必要なデータがあることを認識せず、担当部署を探す・情報提供を求めることなどが繰り返されると、業務の効率は非常に悪くなる。

《解決策の提案》

Google を参考として、ファイルサーバ内のファイル検索に加え、ファイルを入手できる検索システムを提案する。

- インデックスの取得に加え、ファイル(データ)を検索サーバに自動的に取り込む。
→自動的なファイルの取り込みにより、幅広いファイルを、過去に遡って提供可能。
- 検索結果には関連ファイルへのリンクと共に、キーワードに該当する部分が強調された、ファイル内容の抜粋が表示される。
- 検索結果には「誰が」「作成日」ということがある程度わかる情報が付加されている。
→サーバにファイルを登録する際、上記情報のタグを付ける方法など。

- 自部署の業務外の問い合わせに応える場面でも使える。
→ 質問を受けて検索を行い、質問内容に関連するファイルを多く作成している部署を探す。
- 公開されては困るファイルもあるため、検索システムへの取り込みを制限する方法を用意する。

このシステムのメリット

「自分で探したい」「何でもみたい」「いつでも使いたい」「どこでも使いたい」「簡単に使いたい」「誰でも使えるようにする」「担当部署とデータがセットで入手可能」「ブラウザがあれば使える」(図 1 参照) などが挙げられる。

イメージとしては、Google のような検索機能が参考になる。(図 2 参照)

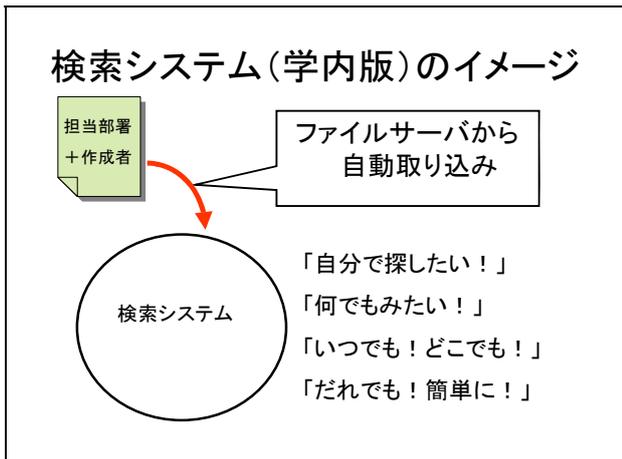


図 1 検索システムの概要図



図 2 検索結果の例

《課題と解決方法》

このシステムには次のような課題があるが、それぞれを解決する方法も考えた。

- 検索システムに取り込まれたくないファイルの存在。
→ フォルダを検索から外す仕組みの導入 (検索ロボット避けのイメージ)
- 新しい・古いものが区別できない。→ ファイル収集時に更新時間を取得して検索結果に表示。
- 誰が作ったかわからない、検索結果が適切とは限らない。
→ 利用者の判断に任せるが、判断材料としてファイルの取得場所などを検索結果表示で明らかにする。方法として登録制や、自動タグ追加 (フォルダ名) が考えられるが、登録制は登録の徹底が困難なため、後者が良い。他に、利用者によるファイルの評価機能の装備も考えられる。

4. 結論

今までの共有ファイルサーバでは、個々のファイルは有用であっても、それを見つけることは困難であった。今回提案した検索システムを利用することで、それが、「見えてくる」かつ「気づく」ようになり、「探し出せる」ようになる。加えて「どの部署がいつどんな情報を生み出すかがわかる」ようになる。これにより、データの活用に加えて、部署間のカベを取り除くと共に、各部署の活動が見える化され、活動評価にも活用できる。